

# 大深谷沢左俣

一九八六年六月七日

木

大深谷沢二俣までは、一九八二年

五月二三日、西・橋内パーティが右俣を遊行了たときの記録があり、四年たった今も、特に変化はないので、そちらの記録を参照されたい。

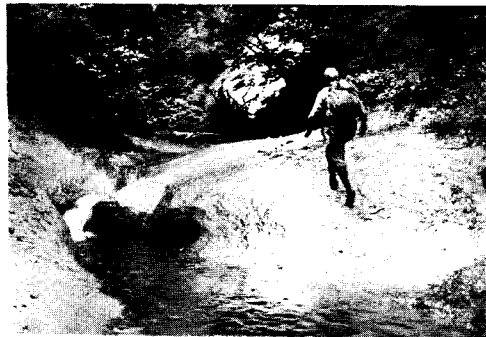
二俣より一五分ほどで、右岸より一〇分滝が合流している。その先さらに一五分ほどで同じく右岸より一五分三段滝が合流し、本流の方はここに三分の滝をかける。沢登りは今



大深谷沢左俣にて

日が初めての菱沼も、この滝は難なく登れた。

一二時二〇分、源頭部手前の四分滝に出る。この滝は、右岸を案に直登できるが、菱沼を確保するために、



大深谷沢

ザイルを出した。

このあとすぐ二俣となって、源頭部を迎える。水量もかなり少なくなる。これより二〇分ほどで林道に出る。

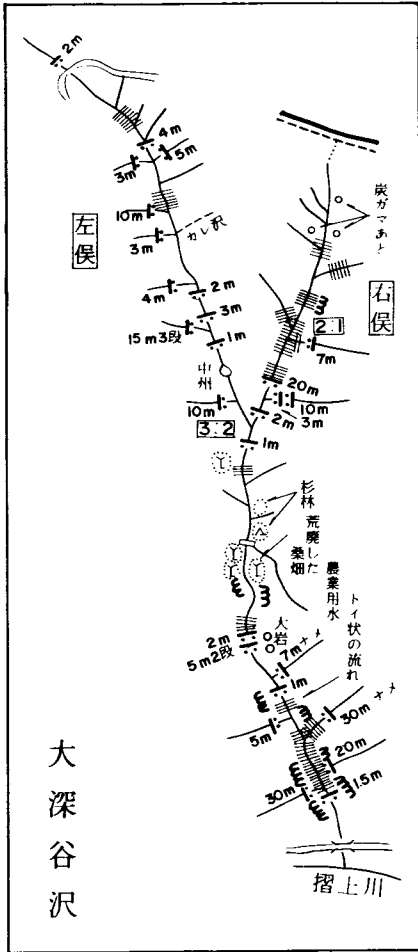
林道のそばに小滝がかかっているので、林道上部を見に行くが、五分

ほどで水は濁れた。

沢登りは今日が初めての菱沼の訓練と遊行調査をかねて、比較的悪場のなさそうな沢ということで、この沢を選んだ。予想通りほとんど河原歩きであったが、初心者の菱沼にとっては、かなり緊張の連続であったようだ。

〔タイム〕 大深谷沢橋(九:三〇) ↓

(記: 一)



### 大深谷沢

二俣(二〇:四〇) ↓ 右俣終了(一)

## 大深谷沢右俣

一九八二年五月二三日

天気晴。大深谷沢出合に車を置いて、遊行開始。歩き始めるとすぐ一五〇程の小滝があつて、ナメとなる。

出だしの雰囲気は上々である。沢の所々に、岩に刻んだ足場や鉄棒が残つていて、昔はこの沢ぞいの往来がかなり盛んであつたようである。

左岸に支沢を分け、五〇二段の滝を直登する。雰囲気良かったのはここまでで、この先は沢が急に明るく、開けてきた。左右を見ると、桑畑である。いや、桑畑の跡といった方が良いだろう。放棄されて何年もたち、荒れ放題となっている。先ほどの道はここに通ずる道だったのかと、合点する。

それにしても、摺上川ぞいに広が